

音読

俳句のリズムを感じ取りながら
音読や暗唱をしましょう

年

名前

俳句2（夏をよんだ俳句） 俳句（はいく）とは五・七・五の十七音から成るものです。季節や風情、歌に込めた思いなどを思い浮かべたり、俳句がもつリズムを感じ取ったりしながら読みましょう。

さみだれ

五月雨を 集めて早し 最上川 (松尾芭蕉)

もがみがわ

毎日降り続く五月雨の雨水は、最上川を増水させ、大きな音を立て、勢いよく流れている。

しづ

閑かさや 岩にしみ入る 蝉の声 (松尾芭蕉)

せみ

夏の盛りのころ、ひっそりとした静けさの中で、ただ、せみの声だけが、岩にしみこむように聞こえ、いつそ静けさが感じられる。

なつくさ

つわもの

ゆめ

あと

夏草や 兵どもが 夢の跡 (松尾芭蕉)

奥州平泉（おうしゅうひらいずみ）今の岩手県（の館）やかた）、ここは昔、源義経（みなもと）のよしつね）とその家臣の武士たちが戦った場所である。時はたち、今となっては武士たちの夢はあとかたもなく消え去ってしまった。ただ、一面に夏草がしげっているだけである。

こがねむし

やみ

たかはまきよし

金亀虫 なげうつ闇の 深さかな (高浜虚子)

夏の夜、家の中に飛び込んできた一匹のこがね虫を、えんがわから外に放り投げたら、こがね虫は、深い闇の中へと吸い込まれていった。こんなに深々とした闇が、身近にあったのだ。

たいが

いえにけん

よさぶそん

五月雨や 大河を前に 家二軒 (与謝蕪村)

しとしとと降り続く五月雨のために大河は水かさを増し、激しい勢いで流れている。激しい流れの大河を前に、岸にはたよりなさそうな家がただ二軒、心細げに建っている。

読んだ数

() で囲む

11	1
12	2
13	3
14	4
15	5
16	6
17	7
18	8
19	9
20	10

よい姿勢

すらすら読む

俳句の暗唱

意味が言える

私の評価

()

先生の評価

()

() とつてもよい

よい

もう少しい